

029  
254  
1

鶴川

2  
2



029  
356  
1

愛知女子  
第 11483 冊  
書 圖

鴨川八重集

58711  
957

八三三



予病のつめり毒法よのちりき  
歸方くく此風俗のま籠るる小目を替じ  
々ふと程籍の口ま俳諧喜ぶ郊の土地り  
あひす蓄またるまの汁のあ海まふも  
志と魚一のあ是記を後一程山一ま  
ふらめりや思ひあふりぬやふふふふ  
深川のまふおねく八人の社中を程を

第ふしや魚の盛や根際中や海の奥一  
きほじくくんと無う深川も八かたお念と  
各分一もそく世の中は海難をいさ  
ふん終ふぬちんきんも水の中一秋の  
月たあらん小川の蘇の元美ふちつちらん  
ふいふ乃八かた此種をききやせんもあは  
そらんふ小水月見の真ある程いあふ一と  
雁儀はくそりくふふい園志とつてい

鴨川のかやりの一橋いそりき東山ふ  
出たは法光を貴一たのく紙をさか  
て栄い酒ふ身筆を替の白を吟一  
え川く替の扱を買いあふくくくゆり  
八人の買交行の念をさるふふふふふ  
ちりぬ

明和号の紙一中秋夜の夜月の小水

雅馬  
十

標題

薪

石の如く燃ゆる如く各紫買ん 寸馬

菜

菜の名のと銘日冬買し冬の日 飛雪

巨磨

巨磨く七雪の如くふりく 洛 李完

芋

巨磨の漬の如くや日夕芋 志流

宋

うきよき宋の思さよりの月 阿佐

酒

酒利程の如く月一や月の心 結鳥

筆

筆買ふと人さしわさる月の月 文下

紙

紙の如く紙の如く紙の如く 結鳥

後宴

八人の取おはしつるまの月 飛雪

賢くはるゆき一草おのりお 陸奥

おのりお 権 権を踏く 重光

沖のあはりお月の 文下

無しの 才馬

後 阿誰

ゆ 赤流

う 秋鳥

恋 文下

鏡 飛雪

木 阿誰

波 重光

布 陸奥

花 赤流

けろく(空鏡)あり十二個 秋鳥

行中(空)ありさ々ぬ 鶏 寸馬

聖(空)あり野(空)あり素依

水(空)あり春(空)あり阿強

宮(空)あり田(空)あり飛雪

鳥(空)あり時(空)あり文下

控(空)ありぬ(空)あり素完

芥(空)あり把(空)あり懐(空)あり

水(空)ありぬ(空)あり嘉(空)あり寸馬

く(空)あり壳(空)あり紫(空)あり秋鳥

一(空)ありと(空)あり阿強

平(空)ありと(空)あり素依

門(空)あり書(空)あり文下

水(空)あり孫(空)あり飛雪

小(空)ありと(空)あり秋鳥

槍(空)あり夢(空)あり素完

名

かんりや 出當 未の 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
 南 出當 未の 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
 本 後 の 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
 襦 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
 袴 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
 袴 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
 袴 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

洛陽書林橋屋次無衛梓行

